

420 μ , 体幅 70—80 μ . LP: TL=1: 6.8, WP: WD=1: 1.4. 内質淡褐色で顆粒に富む, 外質強靱。前後節間に隔壁, くびれあり。核は後節内, 球形, 直径約 40 μ 。1—数個のカリオゾーム。配偶体嚢は球形, 直径 150—190 μ 。胞子は紡錘形。

2. *Discorhyncus dinarthrodes* (仮称) — 宿主: コカクツツトビケラの腸管内に寄生し, 体が卵円状で宿主の腸壁に固有するセファロントが多く見られる。先節は亜球状でその基部にこの属特有の襟状体がある。スポロントは体長 350 μ に達し, 配偶体嚢は球形で直径 80 μ , 紡錘形の胞子を出す。

外毛環虫類の一新種 *Nothra shirikishinaiensis* IMAJIMA について

今島 実 (北海道学大・臨海)

多毛環虫類の Eunicidae の *Nothria* 属の種類は現在までに本邦より 5 種類報告されているが, 北海道からはまだ 1 種も知られていない。此の度尻岸内の海岸よりこの属の 1 新種が発見されたのでその形態について報告する。

体長は一般に 120—150 mm で 180—210 の体節を有す。鰓は糸状で第 1 剛毛節より生じ後方に続くか, 末端の約 40 体節位にはこれを欠く。第 1, 2 疣足の剛毛には多く 3 叉鉤状剛毛が存在するが, 第 3 疣足よりは殆んどこれが 2 叉鉤状剛毛に変る。本種と最も類似した種の内, *N. elegans* は本種と反対で第 1, 2 疣足では 2 叉鉤状剛毛で第 3 疣足より 3 叉鉤状剛毛に置き変わる。又 *N. holobranchiata* と *N. iridescens* は第 1—4 乃至 5 疣足まですべて 3 叉鉤状剛毛のみ有することによって本種と異なる。腹足枝は第 7 剛毛節まで存在する。歯式は 6—7: 6+7—9。本種は干満潮線間のスガモ地帯に砂の棲管を作りその中で生活している。

ヤツデヒトデの自切部の骨格構造について

林 良二 (富山大・文理・生)・沢田 正史 (富山女高)

本種は容易に腕を自切する種であるが, 腕は中央部が最も太く, 太さを減じて盤と接続する。この様に腕基部が細くなる事は他の自切種においても認められる。

一方本種の自切部位は間幅隔壁の後端で腕を垂直に切断する面と概ね一致する, 即ち腹面では第 4 と第 5 歩帯板の間, 背面では大形の第 1 稜板とより小形の盤側主板との間である。盤側切断面には両隔壁を結ぶ横環様骨格構造が見られ, その骨格環に腕は第 1 稜板と左右の第 1 縁板の 3 点によって連結するに過ぎない。

この様な環状構造は自切しない他の網目状骨格をもつ種と比較して, 切れ易い構造を既にもっているのではないかと考えられる。

北海道近海における海坦類の分布

内海 富士夫 (京大・臨海)

北海道及び千島近海における海坦類相の調査は未だ精査の域に達しないが, それでも合計して 19 種を算える。今回北水試及び尻岸内実験所より送られた材料のうちより 11 種を同定し得た。その大部分は亜寒帯系のもので, 北千島付近より 6 種, 東北岸より 3 種, 東南岸より 3 種, 西岸より 5 種, 西南岸より 13 種知られる。動物地理学上, 注目すべきことは津軽海峡から小笠原特産と知られる熱帯系の珍奇種 *Phyllacanthus dubius* BRANDT (バクダンウニ-新称) が建網で採れた事実である。